

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 12 月 12 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3270500329
法人名	有限会社 幸久の家
事業所名	グループホーム 陽だまりの森
所在地	島根県大田市久利町691 (電話) 0854-82-4669

評価機関名	株式会社 ワールド測量設計		
所在地	島根県出雲市荻杼町274-2		
訪問調査日	平成 19年 12月 4日	評価確定日	平成 20年 1月 18日

## 【情報提供票より】(19年 11月 15日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	10 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 12

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての全て

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

## (4) 利用者の概要(11月 15日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.7 歳	最低	80 歳	最高	98 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	そじき診療所、楯野歯科
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

緑や自然に囲まれた環境で、近くには小学校や公民館があり交流を深めながら地域に開かれた密着したサービスを提供している。「あなたらしく、自分らしく」をモットーに利用者第一に心がけ自分が入りたいと思えるホームを目指している。職員同士大変仲が良く、意見を言いやすい関係にあり職員会などで検討しながら全職員の意見が反映されている。とても暖かな雰囲気のある家庭的なホームである。ご家族や地域への働きかけも熱心であるが、年々、利用者やご家族の高齢化による活動の低下は否めない。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員が参加し、前向きに取り組む姿勢が見られた。居心地の良い居室や空間づくり等、前回の評価を踏まえた改善が各所に見られた。不定期ではあるが食事作りなど継続したボランティアも生まれてきている。ボランティアが増える事で、職員にゆとりが生まれ、更に質の良いサービスが出来る事を期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価をしっかりと取り組むことで、課題が明らかになり半年ごとにしたてる個人の目標を明確にし、スタッフの目線を合わせる機会にもなっている。定期的に自己評価することで改善へ前向きな姿勢が見られた。今回の自己評価はこれら全職員の声を拾い上げている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	市を始め関係機関と連携しながら2ヶ月に1度は必ず運営推進会議を行っている。利用者家族や近隣の住民参加もあり、質疑応答や要望をきちんと記録に残し日々のサービスに取り入れている。推進会議により、地域の声を身近に聞けるようになり、職員の励みにもなっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	月に1度は家族に電話や手紙を書き、半年に1度は手紙に写真を同封し、利用者の様子や健康状態、金銭管理状況を知らせ家族に安心して頂ける工夫をしている。また、何かの気付きがあった時には電話し報告するようにしている。熱心に働きかけてはいるが温泉一泊旅行やホームでの催しに誘っても、家族の参加が少なくなってきたのが残念である。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の小学校、保育園、老人会とのふれあい運動会をはじめ、保育園児とのお月見会や芋掘りなど地域との交流が盛んである。そうめん流しは近所の方も足を運ばれた。同法人デイサービスとの合同敬老会や地域ボランティアで踊りや大正琴の演奏などもある。今後は畑で収穫した野菜の漬物やつるし柿を作って近所の人に届けたいの思いをもっている。これからも近所の方が気軽に立ち寄って頂けるよう交流を続けていきたい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「あなたらしく自分らしく」をキャッチフレーズにその人のこれまでの生活や暮らしぶりを大事にした関わりを常に心がけ引き出す努力をしており、日々のケアに生きた理念となっている。職員一人ひとりが立ち戻る原点となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝理念を復唱し意識してその日の業務に取り組んでいる。全職員が理念に基づき己のケアの自己評価を行い全職員の前で発表し話し合う機会も設けている。玄関に理念を掲示すると共に、町内に配布する広報誌でも伝えている。	○	玄関に掲げている理念の掲示位置や文字は見やすいが、さらに家庭的な温かみのある掲示の工夫を期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小学校、保育園、老人会とのふれあい運動会をはじめ、保育園児とお月見会や芋掘りなど地域との交流が盛んである。そうめん流しは近所の方も足を運ばれた。今後は畑で収穫した野菜の漬物やつるし柿を作って近所の人に届けたいと思っている。		今後も地域との交流を大切にされ気軽に立ち寄ってもらえるような近所との関係を築き、触れ合う機会を作って頂きたい。広報を受け入れて頂けない自治会への働きかけも続けていって頂きたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員の声を拾い上げ、前向きに取り組む姿勢が見られた。自己評価をしっかりと取り組むことで、課題が明らかになり半年ごとにたてている個人の目標も明確になってくる。スタッフの目線を合わせる機会にもなっている。前回の評価を踏まえた改善が各所に見られた。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市を始め関係機関と連携しながら2ヶ月に1度は必ず行っている。利用者家族や近隣の住民参加もあり、地域の声をはじめ、新鮮な意見が聞け、内容ある会議となっている。質疑応答や要望をきちんと記録に残し日々のサービスに取り入れている。市に理解や協力を求める場ともなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外ではまだ取り組まれていない。運営推進会議の場で行政へのお願いを伝えている。法人事業や地域活動、広報の全戸配布等について行政にも参加、理解協力を求めている。	○	市町村の方にも現場に足を運んで頂き、現状を把握して欲しいとの思いを今後もお願いし続けるとともに、ホームからもどんどん市へ足を運び相談するなど新しい協力関係を築いて頂きたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度は家族に電話や手紙を書き、半年に1度は手紙に写真を同封し、利用者の様子や健康状態、金銭管理状況を知らせている。また、何かの気付きがあった時には電話し報告するようにしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来所時の聞き取りや、半年に1度は家族と面談して、希望や苦情等の聞き取りをしている。家族の意見を考慮して、受診の時間外対応もしている。毎年家族や地域の方も参加しての市内温泉一泊旅行をしているが、今年はお家族の参加が少なかったで見合わせている。ホームでの催しに誘っても参加が少なくなってきた。	○	年々家族も高齢になられ、出にくくなれるとは思いますが温泉に一泊しての旅行は家族の率直な意見や要望が聞ける機会でもあり、是非続けて頂きたい。行き先や趣向を変えて家族の興味を引き出す努力を期待する。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職や体調により同法人他部署やユニット間での異動や、今年4人もの新人職員があった。部署が変わってからも元のユニットに手伝いに来る等、顔を合わせる機会を持つようにはしているものの、顔なじみの職員が居なくなったことや、さらに新しい入居者もあり、利用者にも動揺がみられた。	○	ホーム内職員の離職や体調による調整はやむを得ないが、利用者への影響や、担当者や家族との構築した信頼関係を考え、調整する場合も最小限に抑えて頂きたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望する外部研修や勉強会に参加出来る。受講後は書面や発表など他の職員への伝達研修を行っている。全職員が各々個人目標を決め半年ごとに管理者に提出し、話し合う機会も設けるなどしてモチベーションを高めている。三者面談を設けるなど、管理者や現場の統括として主任が利用者や職員の把握に努めよき相談相手となっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内8事業所で3ヶ月に1回、代表者で部会を開き情報交換をしている。また、年4回交代で職員の合同勉強会を開き、サービスの向上に努めると共に親睦を深めている。同じ悩みや喜びを分かち合えストレスの軽減にも役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族と共に1日又は半日体験をしてもらったり、デイサービスに通って入居されるなど出来るだけ安心し、納得して入居して頂けるよう努力している。入所決定後もすぐ入居でなく引き続きホームに慣れて頂く場合もある。		入居時に利用者が納得せず不安なままだと、入居後の生活に長い間大きく影響していく。家族の協力なしでは納得したサービスの開始は困難であることから、今後も入居前から家族の理解、協力が得られるよう、又入居後の面会のお願ひなど説明や働きかけを続けていく努力をして頂き
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	強制ではなく、料理の味付け、盛り付け、茶碗洗い、掃除、洗濯干し、畑仕事など得意な事、好きな事に力を発揮してもらっている。長年の経験を生かした蕎麦、寿司、さくらもち作りなど職員も経験の無い技を教えてもらうなど、共に支えあう関係を築いている。誕生日には希望で担当の職員と1日外出や食事など交流も深めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしさを大切にした利用者中心のケアに努めている。好きな時に外出したり、行きたい場所で行いたい事を可能な限り叶えられるように計らっている。現在、携帯電話を持って一人で外出される方がいるが、何回も家族と話し合いリスクも伝えた上で決断されたケースである。	○	自由な行動には危険が伴う。場当たり的ではなく事前に家族へリスクを伴うことの十分な説明や承諾、万が一の時の対応など、十分な計画をしたうえで自由であって頂きたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族には毎月1回状況報告をして意見や要望を確認している。入居者に対して担当職員を決めており、担当職員を中心に全職員の意見を取り込みながら介護計画を作成している。個別記録には担当だけでなく全職員が日々の気付きを記入するようにしている。	○	職員は利用者同士の些細な会話も聞き逃さず、利用者の思いを感じとる努力をしているのだが、日中の利用者の言葉や職員の気付きがメモすら出来ない状況である。夕方の勤務終了30分前から記録の時間としているが、実際に時間内の記録が困難であり、せっかくの気付きが記録として蓄積されない事があるのが惜しい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回評価を行い、半年毎に職員全体で見直しをしている。設定した期間に関らず本人の状態や家族の希望に応じて柔軟に見直しをしている。	○	状態変化の激しい時や不穏な状態が続く場合など、家族や主治医と相談して早期の対応が望まれる。長期化すると本人や他の入所者、職員にもストレスとなる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診、外出、外泊支援など、その時々々の要望に応じて対応している。受診は家族の希望で職員が付き添う事が多い。受診結果や次回の受診予定を家族に伝えている。又、地域の方への高齢者、特に認知症の方についての正しい理解や対応についての啓発を担っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により主治医でも事業所の協力医でも選んで受診出来る。入所前から長い間利用されている医療機関に通院されるよう介助している方もある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	実際に看取ったケースが両ユニットにあった。主治医と相談しケースごとに話し合い対応している。事前に家族と十分に話し合いをされ、最期は泊まられていた家族に看取って頂けた。	○	現在の職員体制で、どこまで支援出来るのか。入居者も年々高齢化しており、ホームでの終末期援助の限界を全職員で話し合ってみて頂きたい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に利用者を敬った優しい言葉がけである。排泄や口腔ケアなど一人ひとりに適した声かけや援助がされている。地元の人たちと交流する中でも、個人情報をむやみに漏らさないよう利用者に対する守秘義務を遵守している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを尊重している。全職員が常に利用者を選択肢を与え、自己決定できるような環境作りを心がけている。利用者同士の関係の中でのペースも大事に見守っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼と夕は職員と利用者で調理をしており、ご飯や汁が炊ける家庭的な匂いを感じる事が出来る。時々手伝いに来てくれるボランティアの方も出来た。利用者のテーブルにコンロを置いて調理する事もある。野菜を星型にしたり、一口サイズのまん丸オニギリ等目にも楽しめた。片付けも出来る範囲で手伝っている。職員は検食の担当者だけその日一緒に食べている。	○	職員が利用者と一緒にの時間に同じ物を食べる事で、利用者も気兼ねせず、同じ立場で会話も生まれ楽しい家族団欒を感じさせる事が出来る。職員の都合もあるだろうが、考えてみて頂きたい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	出来るだけ希望に添って支援している。入浴を拒否する方にも強制せず言葉かけやタイミングに配慮したり温泉に行くなど工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	化粧を楽しむ利用者も多い。自分でする事が困難になった方に希望されれば職員がメイクを手伝う。財布を所持され、買い物を楽しむ方もある。毎晩、晩酌される方もある。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望にそって戸外に出かけるようにしているが高齢化しており、又寒い時期でもあり出難くなっている。冬期は外出し難いが、季節の花や飾りで季節感を味わえるよう工夫している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵をかけることは無く、利用者の自由な出入りを見守っている。家族との話し合いを経て、携帯電話を持って(受けれるのみ)一人で外出される方もある。		
27	71	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月、夜間想定避難訓練や年2回の救急法など多方面の訓練が行われている。消防署との合同訓練も充実している。	○	今後、地域との交流を深め、合同訓練を行いたいという希望を是非実現して頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	大まかな栄養バランス、水分量は考えているが、個別の栄養摂取や水分確保については配慮が必要な利用者に関してのみ、かかりつけ医に確認している。	○	食事検討委員会や食材係りもあるので、献立の見直しや栄養摂取について、一度検討して見られてはどうか。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は季節感のある鉢植えや飾り物、ベンチ、自転車や手押し車、掃除道具等が置かれ、柿をつるしたり、大根を干すなど生活感がある。和室にはコタツが置かれ、心地良く居眠りする利用者もある。中庭にはウッドデッキが置かれ、暖かい時期には食事もしていた。浄化槽か排水の悪臭がユニットをつなぐ渡り廊下や居室にまで漂う事がある。	○	渡り廊下の臭いの原因を解明し、衛生的にも早い対応、解決が望まれる。中庭も素敵になっていたが、でこぼこ石が転がっているのが気になった。転ばれると危ないので取り除いて頂きたい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個人の馴染みの物が増え、その人らしい居室が出来つつある。日中、居室で過ごされる方が少なく暖房が切られている為、廊下やフロアとの温度差が激しく、お昼寝の時間など居室に戻ると寒い事がある。	○	自分で調整される方は良いが、出来ない方に関しては職員がこまめに温度調整して頂きたい。居室に引きこもられないようにとの思いもあるのですが、自由に過ごす落ち着ける空間にして頂きたい。居室が暖かいと自室で過ごされる時間も増えるのではないのでしょうか。